



萌木

9月号



調布市立第七中学校

校長 山田 勝

令和5年9月7日発行

～自尊・立志・感動～

様々な思いを持ち寄り 2学期がスタート

校長 山田 勝

8月29日、本校でも始業式を行い2学期が始まりました。“残暑”の範疇には収まっていない、暑さの頂点の日が続いています。私たち大人でもなかなか前向きになりづらい中ですが、多くの生徒たちが元気に学校生活をスタートさせました。

七中には、不登校特例校分教室「はしうち教室」が設置されています。不登校の中学生が社会的自立に向けて学ぶ学校です。文部科学省の認可を受け、ゆとりのある教育課程・時間割の中で学んでいます。

その“不登校特例校”という名称について、子供の視点も入れて名称を再考するというところで、本校にも検討依頼がありました。先日、新たに「学びの多様化学校」と変更することが文部科学省より発表されたとの報道がありました。不登校に至るケースは個々の事情により同じものではありません。その面では一人一人に寄り添い学びを進めている「はしうち教室」の実態にもあっていると思います。これからは、一層この“学びの多様化”を意識した中で、さらに充実した学校にしていきたいと思えます。

“学びの多様化”に応じた教育を進めることは「はしうち教室」でも行いますが、当然七中の本校においても取り組み、進めていくものです。多様化を認める姿勢とともに、多様化した社会の中で自らの道に進んでいく力を身に着けるためにも、“今の自分”を大切に、他の人とは違う自分をもっと好きになって成長して欲しいと思えます。

そのことを踏まえ生徒に話した始業式の講話を一部紹介します。

《前略》

2学期の始業式は、1学期や3学期の始業式に比べて、少し前向きになりにくいかもしれません。

ただ、そのような機会だからこそ、学校に集まって共に学ぶ意味を改めて考えてみましょう。

小学校は、みんなで同じように同じペースで学習を進めました。社会に出た時のベースとなるものを身に着けることが、大切な時期です。中学生になると、自分の得意や不得意、好き嫌いの個性が出始めます。そして高校や大学など上級学校で自分の個性を伸ばす学びに進んでいくのです。中学校では、自分の個性を探すことも、大切な学習です。さて、そのとき自分一人で学習していて自分の得意不得意、好き嫌いがはっきりととらえられるでしょうか。クラスの仲間と一緒に学習に取り組んでいるとき、周りの人と違って自分は昆虫が好きなんだ、とか、周りの人の心を読もうとする気持ちが強いんだなどということに気が付くときがあるかもしれません。自分の個性をはっきり見つけられることになる場面の一つです。

自分の個性を、これから伸ばしていくべき個性を、探す、探る。

そのことも、学校で仲間と共に過ごすことから見つけられる、学習の一つの側面です。

進路決定に向け焦りも出てくる時期の3年生も含め、だからこそ自分は何者なのか、このテーマと向き合ってみてください。きっと、自分にしかない素晴らしい自分の個性と出会うはず。これから長く付き合っていく自分自身だからこそ、自分の個性を大切にしていきましょう。

まだ宿題が終わってなくて、この後どうしようと困っているのも自分、また苦手な人とも席を並べなければと憂鬱になっているのも自分。そんな自分を大切に、自分を理解しながら、成長していきましょう。